長崎県感染症発生動向調査速報

平成29年第41週　　平成29年10月９日（月）～平成29年10月15日（日）

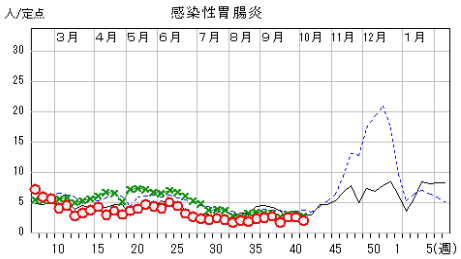
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１）　感染性胃腸炎

第41週の報告数は91人で、前週より23人少なく、　定点当たりの報告数は2.07であった。

年齢別では、１歳（17人）、10～14歳（12人）、３歳（11人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（5.33）、上五島保健所（4.00）、佐世保市保健所（2.83）であった。

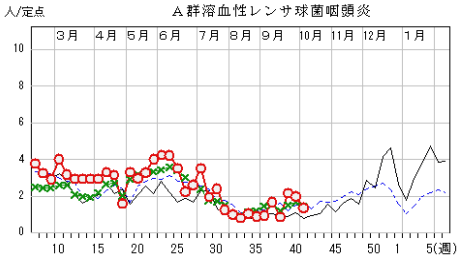


（２）　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第41週の報告数は59人で、前週より28人少なく、　定点当たりの報告数は1.34であった。

年齢別では、６歳（12人）、５歳（8人）、８歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（4.80）、県北保健所（3.67）であった。

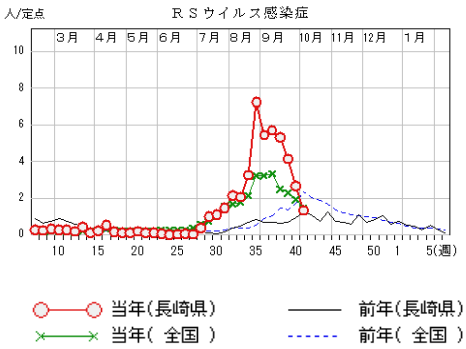


（３）　RSウイルス感染症

第41週の報告数は58人で、前週より59人少なく、　定点当たりの報告数は1.32であった。

年齢別では、１歳未満（28人）、１歳（21人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（3.00）、長崎市保健所（2.30）であった。



☆上位３疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第41週の報告数は、前週より23人減少して91人となり、定点当たりの報告数は2.07でした。壱岐地区、対馬地区以外から報告があがっており、県北地区（5.33）、上五島地区（4.00）、佐世保地区（2.83）の定点当たり報告数は他の地区より多い状況ですので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くを乳幼児が占めています。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第41週の報告数は、前週より28人減少して59人となり、定点当たりの報告数は1.34でした。壱岐地区、西彼地区、上五島地区、対馬地区以外から報告があがっており、特に県南地区（4.80）、県北地区（3.67）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況ですので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【RSウイルス感染症】

第41週の報告数は、前週より59人減少して58人となり、定点当たりの報告数は1.32でした。西彼地区、上五島地区、対馬地区以外から報告があがっており、特に県北地区（3.00）、長崎地区（2.30）は他の地区に比べ報告数が多く、今後の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。乳幼児の肺炎の一因になり、通常は冬に流行するRSウイルス感染症が、今年は全国的に患者が増加し既に流行期に入っているとみられ、注意を呼び掛けています。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

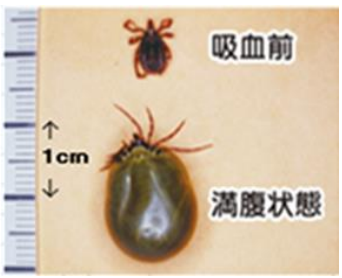
☆トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な季節です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のとおりツツガムシ病を媒介します。春から秋（3～11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。

野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがありますので、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。 また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県医療政策課　予防啓発リーフレット「ダニからうつる病気の予防」
http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2013/06/1372319143.pdf
（参考）国立感染症研究所　昆虫医科学部ホームページ「マダニ対策、今できること」
http://www.niid.go.jp/niid/images/ent/PDF/madanitaisaku20131105.pdf

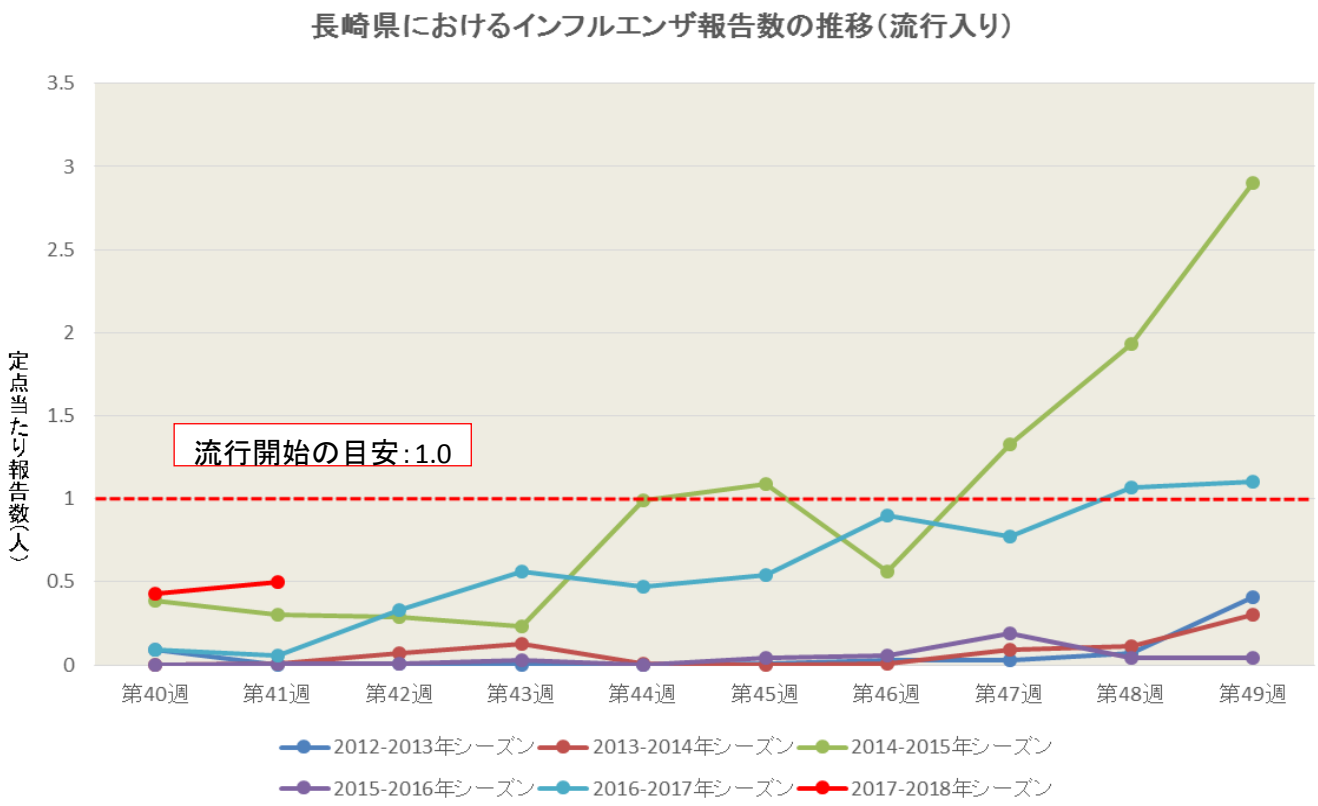


☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう！

インフルエンザの全国的な流行は、例年11月下旬から12月上旬頃に始まり、年が明けて1月から3月頃にピークを迎えます。本県では、1月から本格的な流行が始まり、以後患者数が急増して2月初旬から中旬にかけてピークに達する傾向にあります。第40週の定点当たり報告数0.43に比べて、41週は0.50と増加して来ました。流行開始の目安としている定点当たり報告数「1.00」にはまだ達していないものの、早めの対策が重要です。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。他の原因によるかぜ症候群より重症化しやすい傾向がありますので注意を要します。感染経路は、咳やくしゃみの飛沫による飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによって成立する接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

飛沫や接触により感染が成立するため、外出先から帰宅した際の手洗いの励行やマスクなどによる「咳エチケット」の徹底など、積極的な感染予防を心掛けましょう。また、インフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからないというものではありませんが、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週後から5か月程度までと考えられていますので、流行が始まると考えられる11月下旬に間に合うよう、早めにワクチンを接種しておくことが望ましいです。



◆全数届出の感染症

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核　患者　男性（70代・1名　80代以上・1名）
無症状病原体保有者　男性(30代・1名)

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症　患者　女性（10歳未満・1名）

4類感染症：日本紅斑熱　患者　男性（60代・1名）　女性(70代・1名)

5類感染症(全数把握対象)：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症　患者　女性(60代・1名)

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第36～41週、9/4～10/15）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	36週	37週	38週	39週	40週	41週
	9/4～	9/11～	9/18～	9/25～	10/2～	10/9～
インフルエンザ	0.10	0.06	0.09	0.10	0.43	0.50
ＲＳウイルス感染症	5.45	5.70	5.32	4.14	2.66	1.32
咽頭結膜熱	0.16	0.16	0.14	0.16	0.23	0.18
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.93	1.66	0.86	2.16	1.98	1.34
感染性胃腸炎	2.50	2.73	1.75	2.59	2.59	2.07
水痘	0.32	0.23	0.27	0.18	0.14	0.18
手足口病	0.95	0.57	0.68	0.55	0.52	0.61
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.02				
突発性発しん	0.57	0.39	0.32	0.41	0.43	0.20
百日咳			0.02			
ヘルパンギーナ	0.70	0.66	0.75	0.36	0.48	0.32
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.57	0.75	0.16	0.75	0.34	0.25
急性出血性結膜炎			0.13			0.13
流行性角結膜炎	0.38	0.50	0.50	0.13	0.38	0.13
細菌性髄膜炎					0.08	
無菌性髄膜炎	0.25	0.17		0.17	0.25	0.08
マイコプラズマ肺炎	0.42	0.25	0.17	0.08		0.25
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.17					

（2）　疾病別・保健所管内別発生状況　　（第41週、10/9～10/15）

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	**0.50**	0.27	0.41			0.10	0.50	3.50	1.20		
ＲＳウイルス感染症	**1.32**	1.50	2.30	0.50		1.00	1.80	3.00	0.25		
咽頭結膜熱	**0.18**	0.17	0.30			0.50	0.20				
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	**1.34**	0.67	0.80			1.83	4.80	3.67	0.25		
感染性胃腸炎	**2.07**	2.83	1.70		1.50	1.83	2.60	5.33	0.75	4.00	
水痘	**0.18**	0.50			0.25	0.17		0.67	0.25		
手足口病	**0.61**	0.67	0.70	5.00		0.33				0.50	1.50
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	**0.20**	0.33	0.20		0.25	0.17	0.20	0.67			
百日咳											
ヘルパンギーナ	**0.32**		0.20				1.80	0.33		0.50	0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	**0.25**			1.00		0.67	0.60			1.00	
急性出血性結膜炎	**0.13**	1.00									
流行性角結膜炎	**0.13**		0.33								
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	**0.08**		0.33								
マイコプラズマ肺炎	**0.25**		0.67								1.00
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											